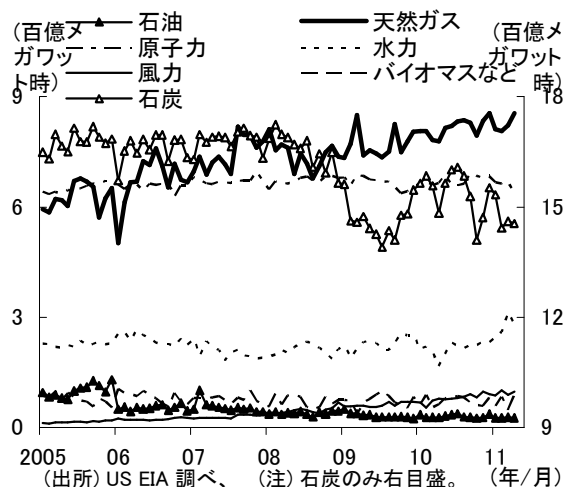


エネルギー転換進む米国発電市場

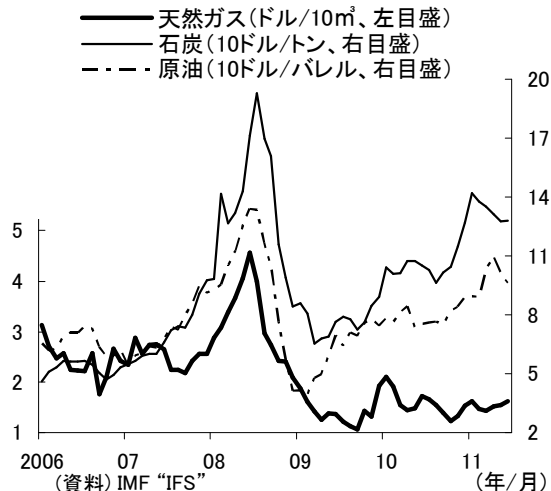
～ 昨年央以降、電力需要に翳り ～

- (1) 近年、米国発電市場では急速に構造変化(図表1)。石油火力や石炭火力発電が後退する一方、天然ガスが趨勢的拡大傾向。直近データである本年4月には既往ピークを更新。依然、発電量は相対的に小さいものの、風力が緩やかに拡大。本年に入り、水力も発電量増加。再生可能エネルギーへの転換も次第に進行。
- (2) 主因は原油や石炭など化石燃料の価格上昇。天然ガス発電が増加し始めた2006年以降の推移をみると、08年央の一時期を除いて天然ガス価格の低位安定が続くなか、石炭や原油は09年初以降、再び上昇(図表2)。とりわけ石炭価格の上昇はハイペース。背景には、中国をはじめとする新興国の鉄鋼需要の盛り上がりや世界的な石炭需給逼迫の進行。新興国の高成長が続くと見込まれるもと、少なくとも当面、石炭価格の値下がり期待薄。
- (3) 加えて米国発電市場の価格競争。過去10年間の市場動向をみると、電力会社のシェアが7割から6割に落ちる一方、IPP(独立系発電事業者)のシェアは2割から3割に増大(図表3)。IPPの発電量をみると、石炭や原子力に加え、天然ガスや風力の発電量の増加が顕著。
- (4) マクロ経済に目を転じると、従来、電力供給量は雇用者数や生産動向に先行して推移するなか、昨年半ば以降、電力供給量に減勢の兆し(図表4)。今春以降の物流面での翳りも加味してみれば、すでに米国経済は調整局面入りした可能性も。

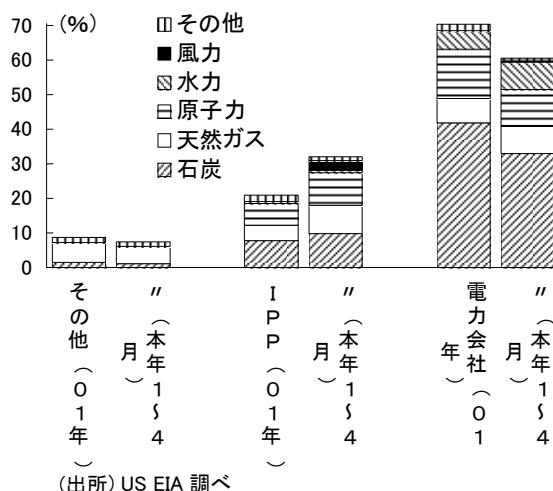
(図表1) 米国のエネルギー別電力供給量(季調済)



(図表2) 天然ガスと石炭、原油価格の推移



(図表3) 米国の発電業者別電力供給量シェア



(図表4) 米国電力供給量と雇用者数、鉱工業生産

